

# 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○6月10日～

先週のドル／円はあまり方向感がなく、停滞したような動きになってきました。

週足や月足でも陰線が出るなど上値が重くなってきているようにも見えるため円高方向への動きにも警戒しておいた方が良さそうです。

今週は日米ともに金融政策を決める会合があるため乱高下には注意したいです。

米国は利下げ、日本は利上げをするかどうかという状況ですが先週発表された米国の雇用統計は、非農業部門雇用者数は予想より強い結果でしたが失業率は悪化して4%となりました。

バイデン政権が移民政策を転換して、突然移民の受け入れを中止した背景には米国人の雇用を守るという面もあるようです。

利下げはドル安要因ですが株価にとっては、最初は上昇要因となることが多いのですが利下げが進むにつれて景気悪化の影響から株安になります。

過去のデータを見ても利下げが始まって時間差で米国の株価が崩れています。

そうすると株の下落とドル安が加速度的に進むことになるので、大きな流れに変化が起こるかどうかは日足だけでなく、週足なども見ながら判断したいです。

今年が為替相場、株式相場の長期的な転換点になる可能性があるということです。

今週のFOMCでは米国は金利を据え置きするという予想で、9月か11月に最初の利下げを行うとの見方が強まっています。

日本は今回金利据え置き予想が多いですが国債の買い入れを減額するかどうかなど金融引き締めにもどれだけ舵取りを行うかがポイントです。

日本の金融政策の変更は米国よりも予測が難しく、まさかの利上げもあるかもしれません。

また、今週は米国で消費者物価指数、卸売物価指数などインフレ関連の指標発表もあるため指標発表後に動きが出るかもしれないので注意が必要です。

## ● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

先週のドル／円はあまり方向感がなく、上値を試す勢いも弱まってきました。

介入後は158円を超えていく強い動きがなくなり、5月も何度か158円まで近づきましたが反落して155円あたりまで下がる動きとなっています。

154-158円程度のレンジを動いているので、今週レンジブレイクが起こるかどうか注目したいです。

## 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

先週末は雇用統計後に上昇し、157円あたりまで上がったところで失速してマーケットは終わっています。上値は157.8円を超えると158.3円あたりが次の目標値となってきます。

何度か158円あたりで頭打ちとなっているので、155円や156円あたりで買ったものは利益確定もしっかりしていきたいです。

下値は155円を割り込んでも153円台半ばあたりにもサポートがあるため下がれば買いと考えてタイミングを見ていきたいです。

### <気になるクロス円>

クロス円も高値圏にあります。上値が重くなって、少し下がってくるかもしれません。

ユーロとカナダは利下げをしたこともあり、今後は上値がおさえられそうです。

オセアニア通貨(豪ドル、NZドル)も週足で陰線となっており、高値買いは避けたいです。

南アフリカのランドは下げ止まったように見えますが中長期的にはまだ下がるかもしれないので、週足チャートも確認しながらトレードしたいです。

そして、下落が続いていたトルコリラが春以降は下げ止まってきたようにも見えます。

さすがに4円台まで下落すると下値が限定的になってきたのかもしれません。

リラは金利がびっくりするくらい高いので、そろそろスワップ狙いで買っていきタイミングを考えてもいいかもしれません。長期保有の場合はレバレッジ低めが鉄則です。

クロス円も日米の金融政策によって動きが出るので、指標発表の前後は動きに注意したいです。

\*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

### <今週のファンダメンタル?>

日本では4月貿易収支、1-3月期GDP(改定値)、日銀金融政策決定会合、植田・日銀総裁定例会見などがあります。

米国では5月消費者物価指数、FOMC政策金利、5月月次財政収支、パウエル・FRB議長定例会見、5月卸売物価指数、前週分新規失業保険申請件数、6月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏で4月卸売物価指数、4月鉱工業生産、ラガルド・ECB総裁発言、ドイツで5月消費者物価指数などがあります。

ほかには、英国で4月GDPの発表などがあります。